

平成26年度第2回 鹿児島市清掃事業審議会 概要

1 開催日時

平成26年10月16日(木) 10:30～11:55

2 場 所

市役所東別館特別中会議室

3 出席者

(1) 委員(12名)

赤崎委員(副会長)、赤星委員、有馬委員、井上委員(会長)、岩元委員、内委員、鬼塚委員、瀬戸山委員、藤安委員、三原委員、向段委員、吉見委員

(2) 事務局(9名)

環境局長、清掃部長、リサイクル推進課長、廃棄物指導課長、清掃事務所長、北部清掃工場長、南部清掃工場長、リサイクル推進課庶務係長、同課ごみ減量係長

4 次 第

(1) 報告事項

- ①本市の現状と課題
- ②中核市のごみ量の状況と主なごみ減量施策について

(2) 意見交換

- ①家庭ごみ有料化などのごみ減量施策について

(3) その他

- ①今後のスケジュールについて

5 報告事項及び意見交換の概要

(1) 報告事項

- ①本市の現状と課題
- ②中核市のごみ量の状況と主なごみ減量施策について

(一括説明及び一括協議)

発言者	発 言 内 容
委員	資料にある「主なごみ減量施策について」の「新聞紙などの古紙の収集方法の見直しによる対応」について、私どもの町内会で定期的に古紙の収集を行っているが、ごみステーションに古紙が出されていることもあり、町内会の古紙収集に出して欲しいと思うことがある。一方で、行政が古紙の収集を実施しなかった際に、何か手当をしなければ、古紙がもえるごみに入るのではと心配している。
事務局	資料にある枚方市や横須賀市等は古紙の行政収集はせず、集団回収による収集を行っている為、ごみ量に古紙が入っておらず、古紙が算

発言者	発言内容
委員	<p>入していないので、ごみ量が減っている。鹿児島市では集団回収する団体が約400団体あり、年に1回か2回、集団回収を実施している。今後の古紙収集のあり方について、補助金制度を含め、検討していきたいと考えている。</p> <p>鹿児島市のごみ総量は、中核市43の中で32位となっており、恥ずかしい思いである。先ほど、委員の意見にもあったが、今の状態で古紙を集団回収のみにしてしまうと、もやせるごみが増える懸念がある。横須賀市や枚方市は、ごみの有料化を行っているのか。</p>
事務局	<p>枚方市や横須賀市では、ごみの有料化は実施していない。この資料にある鹿児島市のごみ量には、缶、びん、ペットボトル等の資源化されたものも含んでいる。枚方市は古紙の集団回収が定着しており、その集団回収により資源化されたものは、ごみ量に含まれていない。</p>
委員	<p>古紙については、市が間に入って古紙を回収し資源化するものと、ボランティアなどの団体が回収し資源化するものの2つの回収ルートがあると理解している。古紙そのものは無駄に使われているわけではないが、市としては収集経費が発生しているかと思う。(資料の各市のごみ総量は)統計上の問題で、鹿児島市の場合、古紙を除いた市民一人当たりのごみ排出量はどのくらいになるか。</p>
事務局	<p>三つの都市(枚方市、横須賀市、奈良市)は、民間業者や市民が古紙の回収を行ってきており、回収活動が進んだ市である。今の質問だが、古紙の計画収集は、市民一人一日当たり73.2gで、市民一人一日当たりのごみ排出量の10%である。古紙を除いた市民一人一日当たりのごみ総量は631gで、中核市の計画収集量の平均量は下回ることになる。</p>
委員	<p>今の事務局からの説明は、各市のごみ量の統計の仕方が異なっているということであり、鹿児島市が他都市の施策に合わせないとならないような切羽詰まった状況ではない。鹿児島市は古紙を回収していることから、ごみ量が多くなっており、その古紙を除いたら中核市の平均量であるとの事務局の説明である。次は、古紙をどのようなルートで回収するかであり、地域の活性化に結び付けるなら、地域の団体による回収を促すことも一つの方法であるが、負の要素もあることから、現状を維持することになることもあろうかと思う。この議論については、別途、議論して頂きたいと思っている。他に、この報告事項で質問等はないか。</p>

発言者	発言内容
委員	<p>中核市は人口が30万人以上の市であるが、資料では中核市の中でも人口規模が小さな市が、ごみ量の少ない上位を占めているようだ。鹿児島市は人口規模が大きい、都市の規模により、ごみ量に影響があるのか。</p>
事務局	<p>都市の規模に応じて、市民へ周知する方法などの問題もあり、人口規模での影響もあるかと思う。</p>
委員	<p>都市規模も若干の影響があるかと思う。人口規模が小さくなれば、田畑を持っている家が多くなり、生ごみを自家で処理することの可能性もあろうかと思う。鹿児島市は古紙を除けば、ごみ量が中核市の平均あたりであるが、その平均あたりで良いのかということと、地球環境問題の観点から、ごみの排出量を減らしていくことは、人類や国家の目標である。委員の皆さんには、そのことを考慮のうえ、審議して頂きたいと思っている。</p>

(2) 意見交換

①家庭ごみ有料化などのごみ減量施策について

発言者	発言内容
委員	<p>ごみの有料化は、焼却施設にお金がかかるからなのか、それとも、市民意識の向上を目指しているのか。町内会長が困っているのは、ごみステーションの問題である。ごみ施策はごみ減量に限ったことではなく、ごみステーションや収集の問題もある。</p>
事務局	<p>ごみの有料化はごみ減量施策の一つであり、有料化の目的は、市の収益を増やすものではない。資料にあるが、有料化による手数料を如何に市民サービスの向上につなげていくかが第一の目的である。その中で、集団回収の補助金の引き上げとか町内会の協力金とかを、この審議会で審議して頂き、今後、施策に取り組んでいきたいと考えている。</p>
委員	<p>45リットルのごみ袋だけにしてしまうと、単身やごみを出す量が少ない世帯は困るのではないかと。袋の大きさの工夫が必要かと思う。</p>
事務局	<p>他の都市のごみ袋については、10リットルとか20リットルとか段階別にごみ袋があり、様々な工夫をしている。ごみの有料化が決まった時に、具体的な対応を議論頂きたいと考えている。今回の審議会</p>

発言者	発言内容
委員	<p>は、有料化をすると決めつけるのではなく、有料化のあり方などを審議して頂きたいと考えている。一番大切なことは住民の理解であり、また、住民への情報提供が重要であると考えており、今年度は有料化の可能性を十分に審議されて頂きたいと思っている。有料化を検討すべきと決まった次年度以降に、手数料の使い方やごみ袋のあり方などについて、事務局から提案させて頂いて、具体的な個別の案件を審議会にて審議されて頂きたいと考えている。</p> <p>長崎市は指定ごみ袋制度を導入しており、有料化は検討していないと資料にあるが、指定のごみ袋を使用するのは有料化ではないのか。違いがよくわからない。</p>
事務局	<p>長崎市の指定ごみ袋制度は、手数料を上乗せせず、袋を指定しているだけである。なぜこれを使用するのかというと、収集するごみの種類でごみ袋の色を変えることで、収集日に決まったごみの色の袋でしか出せなくなるので、ごみの分別意識が高まることになる。ごみの減量化は必ずしも有料化ありきではなく、長崎市ではごみ袋を指定することによって、適正なごみの分別が行われており、ごみの有料化は考えていないようである。この例も、ごみ減量施策の一つの例ではないかと考えている。</p>
委員	<p>資料では中核市と鹿児島市を比較しているが、主婦としては、中核市よりも隣の市である日置市や指宿市がどのようになっているのか、近隣の市の状況が気になる。仮に、有料化となり、ごみステーションに違う袋が出された際に、市の収集がごみ袋を持っていかないと町内会の負担が大きくなり、町内会の負担については、行政も考えて欲しいと思う。</p>
事務局	<p>県内の19市中の鹿屋市、阿久根市、西之表市、日置市、始良市、奄美市の6市は有料化になっている。本市の近隣の日置市と始良市は有料化になっている。有料化を実施した他都市では、有料化を実施する前に、町内会ごとに個別の説明会を700～800回開催している。市民には周知広報を含めて、十分な理解が必要であると認識しており、場合によってはごみステーションでのごみ分別指導も考えている。</p>
委員	<p>導入の前後は、説明会などがなされて効果があるが、その後、慣れてくると町内会長が苦勞される。実施した後も含めて、やり方を考えていかななくてはいけない。</p>

発言者	発言内容
委員	<p>ごみの減量化には有料化が必要だと考えている。また、生ごみの出し方にしろ、水切りがなされておらず、市民の意識の向上を図る為にも、有料化は必要かと思う。</p>
委員	<p>有料化の導入となるとマイナスの面もあろうかと思う。そのマイナス面を無視した議論のみになってしまうと、後で大変なことになってしまう。課題もみながら、その対応も考えていくというやり方をする必要がある。一方的に押し付けてしまうと、物事はうまくいかなくなると思う。是非、この審議会ではこのようなことは配慮して欲しい等の意見を出して頂きながら、議論を進めていきたいと考えている。先ほど委員から、独身世帯などについて、袋の大きさを考えてはという意見があったが、有料化に向けての施策を考えるうえで、貴重な意見であったと思った。さらに、皆さんの意見頂きたいと思う。</p>
委員	<p>前回の審議会では有料化制度が分かり難かったが、今回はかなり分かりやすく、受け入れやすいベースができたのではと思う。今年は消費税が8%にあがり、来年は10%にさらにあがり、皆さんのお金の使い方が非常に厳しくなっている。月当り450円の金額(有料化による増となる負担額)は、人によっては払えない金額になろうかと思う。今の市民の生活を第一に考えながら、有料化の金額の設定は慎重にすべきである。この手数料は、こういうところに使うので協力をください、というストーリーがないと大多数の人は払いたくないかと思う。</p>
事務局	<p>ごみ処理の問題は、本来、行政が行うべきとの認識があり、さらに、手数料を加えるのは2重取りではないかという議論もある。2重取りではなく、手数料が市民へどのようにして還っていくかの説明が出来ないことには、理解が得られないものと十分に認識している。また、次回以降に課題等を含め、様々な問題点を認識して頂いて、審議して頂きたいと考えている。</p>
委員	<p>45リットルのごみ袋使う標準的なモデルだけをシミュレーションするのではなく、例えば1人暮らしの人なら月にごみをどの程度ですとか、細かくモデルを分けて、例にしたものを事務局に示してほしい。</p>
事務局	<p>次回の会では、様々なパターンを準備し、示したいと思っている。</p>
委員	<p>日本は原油依存である。原油で出来ているビニールなどを燃やすの</p>

発言者	発言内容
	<p>は、資源を無駄にしている。もっと、このビニールなどを再利用する方法を考えるべきである。最も資源を無駄にするのは、水を燃やすことで、かなりのカロリーが必要となる。問題は生ごみであり、ダンボールコンポストなどにより自分で処理することが望ましいが、アパートやマンション住まいの人は処理が難しく、ごみとして出さざるをえないかと思う。鹿児島市は生ごみをバイオマスに活用しようと検討しているようであり、これはすばらしいことである。以前、颯娃町から鶏糞を利用したバイオ事業の話があったが、鶏の産業は安定しておらず、鶏糞の安定した供給が望めない。一方で、安定的に供給され有機物は、人の汚物である。有機物を活用したバイオ事業を全面的に出して、さらには有料化を進めることに鹿児島市民は納得すると思う。</p>
事務局	<p>生ごみの70%は水分であり、例えば水分を絞って、生ごみの水分が40%になれば、その分だけでもごみ量は減り、水切りは重要な要素である。指摘頂いたバイオガスは、生ごみと紙ごみ、脱水汚泥を使う予定であり、資源を有効活用したいと考えている。しかし、100%を使うのは難しいので、ごみを出さない、繰り返して使う、再生利用する、いわゆる3Rを推進し、市民の意識を高めることが最も重要である。市民の意識を高める一つの手段として、有料化があると考えている。そのあたりを含めて、意見を頂きたい。</p>
委員	<p>有料化になったら、ごみがかなり減ると思う。市民は有料化が必要だと案外思っていると思う。旧5町では以前は有料だったが、合併してから緩くなったので、なんでもごみとして出してしまい汚れてしまったようで、行政から働きかけをして欲しい。</p>
委員	<p>有料化を導入するとなった際の旧5町住民への説明は、元々、有料化であったことから、別途考えるべきかと思う。</p> <p>教えて頂きたいが、生ごみの7割が水分のようだが、それを4割の水分にしたら、ごみはどのくらい減るのか。</p>
事務局	<p>約1割のごみ量が減ることになる。</p>
委員	<p>生ごみの水切りだけで、ごみが10%減る効果がある。尚且つ、体積も減り、1つのごみ袋に入る量も増えることになる。これも有料化に対する一つの知恵のようなものであり、このような知恵も含めて広報すべきかと思う。</p>
委員	<p>今回では意見の取りまとめはしないが、方向として、有料化は避け</p>

発言者	発言内容
	<p>て通れないが、十分な説明が必要である。その説明は、プラスもあればマイナスもある。マイナスをどう手当てするのかを含めながら、また、ごみを出す人の色々なタイプがあるので、タイプ別にきめ細かいシミュレーションを行って説明していく。本日は、様々な意見が出たが、事務局においては、導入時の課題と解決方法について検討してほしい。</p>

(3) その他

①今後のスケジュールについて

発言者	発言内容
	<p>(事務局提案の次回以降の審議会開催等のスケジュールについて了承される。)</p>